



喜多埜

天神さまと雷

天神さまといえばカミナリ。これは多くの日本人が抱く天神さまのイメージではないでしょうか。このイメージの原点となったのが、北野天神縁起絵巻(承久本)の清涼殿落雷図の赤鬼のような雷神像といわれています。

この落雷は実際にあったもので、**延長八年**六月二十六日(現在の暦で七月二十四日)、宮中の清涼殿で、醍醐天皇をはじめ公卿らが会議をしていたところ、午後一時頃から、愛宕山方面(南西)からにわか黒雲が立ち上って雷雨となり、凡そ一時間半後の午後二時半頃、**清涼殿南西の第一柱に落雷**が直撃しました。

この時、周囲にいた公卿・官人の多くが巻き込まれ、その中に生前、天神さまこと菅原道真公の左遷に荷担した者も含まれていた為、**道真公の祟り**と言われるようになりました。

そういつた訳で、この時に雷を落としたのは天神さまといわれるようになります。そこから天神様⇨雷神と結びついた訳ですが、北野天神縁起絵巻によると、天満自在天神の十八万八千の眷属の中の第三使者**火雷火気毒の王の仕業**とあり、天神さまとなられた道真公の臣下が落としたものとされています。

ですので、**正確には天神さまは雷神ではない**のですが、時代の変遷や信仰の深化と共に天神さまといえばカミナリといわれるようになり、今に至っています。

八月は雷の多い時期でもあります。特に**都市部での落雷**が近年目立ちます。危ないと感じたらクワバラと唱えて早く避難しましょう。

日蔵上人と笹の窟

上記にも触れましたが、天神信仰の一つの根本となったものに、北野天満宮所蔵の『**北野天神縁起絵巻(承久本)**』という絵巻物があります。一巻から五巻までが道真公のご生涯、六巻が都での変異、七巻から八巻が日蔵上人の六道巡り、それに白描の九巻からなります。この中で、**日蔵上人(道賢)**という人の巻が二巻もある訳ですが、この人は現在の奈良県・大普賢岳(大峰山)で修行中の修験者でした。

その日蔵上人が天応四年(九四一)八月一日に、**笹の窟(じょうのいわや)**という岩窟で修行中に**仮死状態**となり、あの世にいつて、地主**神蔵王権現**の導きで三界六道(地獄)を巡り、その中で、太政威徳天に転生した道真公と面会し、「相次ぐ災害は我が眷属が引き起こしたものであり、我を祀れば逃れられる」と教えられ、**十三日後に蘇生し、天神信仰の形成に尽力**したという不思議なお話が、北野天神縁起絵巻には描かれています。

近年**夏山登山**が流行ですが、古来山々は**不思議なチカラ**のある場所とされており、**登山は修行**でした。日蔵上人の修行も夏でしたが、**仮死状態**になった事に象徴されるように、**生死がすぐ隣り合わせ**である事も事実です。これから登山を考えられる方には、**霊地に踏み入れるんだ**という心構えを大切に、**安全な登山**をと願わずにはいられません。

伊勢の神宮 お白石持ち行事

本年十月二日(内宮)、五日(外宮)に式年遷宮の遷御を迎える伊勢の神宮では、御正殿などの建物もほぼ完成し、先月からは敷地に敷く**白石**を、崇敬者の方々が持ち寄る「お白石持ち行事」が執り行なわれています。この行事を終えればいよいよ遷宮の建築諸準備がほぼ整います。**天照大御神さま、豊受大御神さまの御稜威の輝く式年遷宮**まであと少しです。

神社携帯サイトのQRコード

ドコモ、ソフトバンク、
au、モバイルPC 対応



編著 網敷天神社 禰宜(神主)

白江 秀知

